

# CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

## 神経系ガングリオシドの化学合成と機能解

岐阜大学 応用生物科学部 准教授  
京都大学 物質細胞統合システム拠点 (iCeMS) 准教授  
**安藤 弘宗 博士**

平成 23 年 11 月 15 日(火) 午後 4 時 00 分～  
第 2 研究所棟 2 階会議室

近年、生命現象のあらゆる場面で糖鎖の機能(または存在)が注目される(または無視されない)ようになったのは、糖鎖研究に専心している我々にとって非常に喜ばしいことである。しかし、「その機能発揮の様子を分子を言語単位としてどこまで表現できるか」という問いには、伏し目がちにならざるを得ない。特に、細胞膜を自由に遊泳している糖脂質の機能をつかむには、相当の努力と労力が要求されるに違いない。

我々の研究室では、その難問に答えるべく、「ガングリオシドの分子レベルの機能理解」を目指して、精密、迅速かつ網羅的なガングリオシドの化学合成法の研究と有用な機能性プローブの開発に傾注してきた。本講演では、複雑な構造を有する神経系ガングリオシドの合成と合成分子の応用によってもたらされた機能研究に関する成果を中心に紹介させていただくとともに、糖鎖合成化学と異分野との融合研究の可能性について話題を提供させていただく。

連絡先: 認知症先進医療開発センター  
センター長 柳澤勝彦(内線 6500)